

目標がある。だからちよつと楽しくやれてる。

語り手 田中 智章（高校二期生 県庁） 聞き手 森 美結

*

―ではまず、なぜこの機会に応募というか立候補していただけたのか教えていただきたいです。

実は私、立守の先生と同じ自治会に所属していて、地域の行事でお会した際に「立命館守山の二十周年を記念して、現役生が卒業生にインタビューする企画があり、学生時代の心残りや社会人として伝えたいことがあれば是非とも応募してほしい」とお話をいただき、少しでも後輩の皆さんの力になればと思い応募しました。とはいえ、今の子は賢いから、余計なお世話かもしれないと思いますが(笑)

―そうなんですね。このインタビューに参加して下さってありがとうございます。ごこざいます。

*

高校生時代

―田中さんは三期生と言うふうに聞いているのですが、まだ学校が結構できてすぐやったと思うんですけど、なんで立守に行こうと思ったんですか。

正直な話をする、ここに入れさえすれば、大学受験をはじめ今後の人生で勉強しなくていいと思ったからです(笑)。あと、新設校だからこそ校舎がきれいだろうし、スーパーサイエンスハイスクールって単語がかっこいいからと思っていたのもありますね。余談ですが、受験の時に「理科に力入れてそうなのに、受験科目が国数英の3科目なんだ」って友達と笑ってました。

―ははは。確かにそれは面白いですね。(笑)

あと、ホームページを見ると、「勉強勉強勉強!」って感じではなく、人前で話すとか異文化交流とか、普通の高校ではなかなか得ることができない機会を与えてくれそうな校風というのも魅力でしたね。

―このインタビューもそういう感じで。

そうそう(笑)。今更ながら凄く取り組みだと思います。こんな経験してる高校生、なかなかいないですよ。勉強も大事ですけど、こういった場面に高校生のうちから慣れておくのも、非常に重要なことだと思います。

―じゃあ、その他のこと、勉強以外のことで何か1番なんかやってよかったなっていうのとかってありますか。

立守ってディスカッションとかめっちゃ多くないですか。

―多いです。

僕らは当然のようにこなしていることですが、実はあれ、他の高校生だと全然できなかったりするんですよ。

―そうなんですか。

ゼミにもよるんですけど、いきなり「グループで○○について話し合っつて、十五分したら見解を発表して」みたいな課題を振られたりするんですが、他のグループだと「急に話し合えって言われても…」みたいな空気になって時間だけが流れていくみたいな感じでしたね。こういうのって、慣れていると「大体5分使って意見を発散させよう」とか、「道筋がぶれないよう最初に前提を共有しよう」みたいなことが最初に浮かぶので、自分のグループはスムーズに話を進めることができました。こういうところは、本当に立守で得た経験が活きたなと思います。

―勉強以外の大切なこととかってことですね。

—そうそう。アウトプットの技術っていうんですかね。そういうった能力がかなり身につけていたのは、大学で感じましたね。その代わり、知識量では他の受験生に全然太刀打ちできなかったですけど(笑)。とはいえ、社会に出ても通用する、獲得したい能力ですよ。

—地理の授業、毎回タイピングから始まるんですよ。将来タイピングが早いほうがいいってことでしてるんですけど、最近本当に早くなってる。そういうところまでしてくれるのも、社会に出て役立ちそうでありがたいなと思います。

—タイピングはめっちゃ大事ですよ。仕事はいつも時間との勝負ですからね。

—やっぱり大事なんですね。じゃあ、練習頑張ります。次に、一番楽しかったことってありますか？学校生活で。

—楽しかったことかー。自分、「みんなでクラスやイベントを盛り上げよう！」みたいな賑やかなタイプではなかったたので、文化祭とか体育祭みたいなイベントより、休み時間にだらだら喋るとか、学校帰りにちょっと寄り道するとか、そういった友人との日常が楽しかったですね。

—自転車に何人乗れるか試してみるとか、守山駅付近のマクドナルドでめっちゃでかいハンバーガー作るとか、くだらないですが、当時は楽しかったですね。

—今バーガーキングが学校の前にできて。

—できてましたね。行ってるんですか？

—はい。あの、たまに夏休み前とかは授業が午前中の日とかあるので、その時は「部活前とかに行こう」みたいな感じで言ったりしています。実は私、水泳をするために外部のスクールに通ってたので、部活動はがつつりしてなかったんですよ。

—そうだったんですね。事前にもらったシートに卓球部って書いてあったと思うんですが。

—そうそう。卓球部でした。これは部活見学の時、先輩方に「外部スクールとか塾とかがあるなら、好きな時に参加してくれてもいいよ。」って言ってもらえたので、これは助かる！と思って入部しました。残念ながら、今は廃部になってますが。

—あ、ですね。今、卓球部ないからどうやったんやろうって結構気になってたんですよ！

—当時は弱小だったのもあり、活動内容も結構緩めで、雑談しながら卓球して雑談して……みたいな感じで居心地のいい場所でしたね。廃部にはなりましたが、卓球部の友人たちとは、今でも連絡を取り合ってるんですよ。

—えー、そうですね。

—そうそう。家族ぐるみで会うこともあれば、男同士で会うこともあったりですね。

—いいですね。楽しそうです。

—当時はほとんどが内部進学希望だったんで、人によっては学生時代だけで7年以上の付き合いになるし、社会人になった今でも、交友関係が続いてるって人も結構多いと思いますよ。

—そうなんですね。ちなみにTOEFLとかってありましたか？

—ありました。確か400点が合格基準でしたね。

—今と一緒です。

—恥ずかしながら、自分はギリギリ合格だったんですよ。ちょっと対策すればクリアできる基準なのに、全くやる気が起きなくて(笑) —選択ですもんね。

友人によると、400点程度なら、少しでも運が傾けばクリアできる計算だと言って、何度もチャレンジしてましたね。当時も今も、そんな無駄な計算する暇あれば、勉強した方がいいんじゃないかと思いますが（笑）

—ははは。確かにそうですね。（笑）

そして、そういう積み重ねのせいで、公務員試験を受ける際にツケを払わされましたね。

—公務員の試験って難しいんですか？

自分は結構苦戦しましたね。筆記試験が教養分野と専門分野に分かれていて、教養分野が高校卒業程度の問題が幅広く出題され、専門分野は六法をはじめとした法律関係などの専門的な問題が出題されるので、難易度は結構高いと思います。専門分野は当然難しいですが、周りもゼロからのスタートだったので、意外となんとかなりました。

ただ、問題は教養分野ですね。高校時代に成績がよくなかった自分は、ここでツケを払わされました。この時、受験組の友人達は、「教養分野は常識レベルしか出題されないから、わざわざ時間を割いて勉強しなくていい」とか言ってたのが地味に辛かったですね。

—高校生のうちにやるべきこととか、やっという方がよかったな、みたいなこととかってありますか。

個人的に、将来自分が何をしたいか、じっくり考えておけばよかったなと思います。高校生の時、私は本当に勉強が嫌いで、試験は一夜漬けで臨んだり、理系よりは楽そうって理由で文系を選んだり、今考えても無茶苦茶な学生だったんです。でも、仕事をしている中で、自分はICTに関すること、特にAIや自動化といった分野に強い興味があるということが分かって、知識を仕事に活かせるよう、家でコツコツ資格勉強

強したりしてるんです。

—そうなんですね。今も勉強してるのすごいですね。

当時の自分が見たらドン引きしそうですね（笑）。ただ、高校生のうちにもっと自分を深堀して、自分の好きなものとか得意なことを見つけておけば、今とは違う未来もあったのかもって考えることがあります。最初にも言いましたが、立守って座学ばかりじゃなく、いろんなことをさせてもらえるじゃないですか。もしかしてプログラミングもやったりしてますか。

—します。情報の授業で。

やっぱりやってるんだ。ほんと凄いですね（笑）。そんな風に、色んな経験させてもらえる中で、ちよつとでも「あ、これ面白いかも」って感じた経験があれば、自分の未来を覗くつもりで「これを極めたらどんな人になれるだろう」とか、「どんな仕事に繋がるんだろう」って調べてみることをおすすめします。調べるだけでも視野は広がるし、もしその経験が将来の目標になりうる出会いだったら最高ですよ。もしそんな出会いがあれば、将来を見据えて学部や文理選択ができますし、どうしてもやらされてる感がでる試験勉強や課題も、自身にとっては目標達成のための手段に変わっていくはずですよ。

立守は他の学校と比較してそういった出会いに恵まれているので、そんな風にアンテナを張って過ごしていれば、あれだけ嫌だった勉強もちよつとは楽しく乗り越えられるかもよって当時の自分に言っただけなんです。

—やっぱり自分の興味あることをやった方が、ってことですね。

そうそう。こんな人になりたい、こんな仕事をしたいから、ここに就職したい、そのためにはこの大学のこの学部に行きたい、そのためには

この高校でこの成績はとっておきたい、って風に、自分の将来の解像度を上げて、クリアすべき壁を意識していれば、嫌なこともゲーム感覚で突破できるようになるんじゃないかなって思います。

―高校で成長したなっと思うことはありますか？

人前で話すこと。ただ人前で話すだけでなく、自分の意見や思いをまとめて、それをいかに飽きずに聞いてもらえるかを考えて、それを実行するというレベルは尋常じゃないほど向上したと思います。

森さんも、同級生が当然のようにやっているので実感しにくいかもしれませんが、これってすごいことですよ。他の高校生はおろか、社会人でもなかなかできてない人はいます。森さんも大学に行けば、自分の成長ぶりに驚くと思います。

―なんか課外活動とかってしてましたか？ボランティアとか。大学でも高校でも。

大学で、『村おこし』っていうボランティアサークルに所属してました。これがまた面白いんですよ。京都の丹後の方にある村で、文化財である茅葺き屋根の補修、田植えやその収穫をするんですが、どれも非日常な体験で面白かったですね。よい友人に恵まれたこともあり、可能な限り参加しました。(次ページへ)

―そういう活動って、やっぱりやっという方がいって思いますか。

無理して活動する必要はないと思いますけど、たらだら過ぐすくらいなら、何か興味がある物事にチャレンジするのは全然ありだと思います。将来やりたいことを探す目的で、気になったものに片っ端から参加するのもオッケーですし、ぼんやりとでも既にやりたいことがあれば、それに関連するバイトやボランティアは探せば出てきますしね。就活のネタとか、下心ありで活動するって話ならなおさらそう思います。周囲

に流されてやってたとか、誰かにやらされてただけのエピソードって、学生がどう取り繕っても、面接官には分かっちゃいますからね。

*

今とこれから

―これからしたいことってありますか？

今、興味がある分野をどんどん突き詰めていきたいですね。公務員も、ICTに明るい人も、ディスカッションが得意な人も、世の中にはたくさんいますが、全部の特徴をもつ人ってなると結構絞られますよね。そうやって、その時に興味が出た分野はどんどん突き詰めていって、オンリーワンの人材になれたらいいなと思っています。今はICT関連の資格勉強をしているんですが、これが一段落したら、次は高校教員の認定試験を受けようと思っています。次の目標はこれに合格することと、それを高校教諭の知り合いに自慢することですね(笑)

―やっぱり目標があった方が、

楽しいですね。なんて自慢してやろうかな、みたいな(笑)

―いやそう言うのでもあると頑張れますからね。(笑) 本日は貴重なお時間ありがとうございました。

(次ページへ)

【感想】

事前に質問を考えて行つてよかったなと思いました。このようなインタビューをするのは二回目で、一年生の時にしたものよりスムーズに進めていくことができたと感じました。高校生の時、大学生の時、そして今までの話を繋がるように聞くことは難しかったけれど、これから似たような道に進むことも考えているので、とても良いお話を聞かせてもらえたなと思います。



右：語り手 田中智章さん
左：聞き手 森美結